

ベトナムの医薬品事情

石川 幸

〈はじめに〉

これまでは「チャイナプラスワン」として製造現場のベトナムに魅力を感じられていた日本人の方が多かったですが、現在は徐々に販売市場としての人気も上がっています。

その理由の1つとして、ベトナムは東南アジアでも有数の人口を抱えているからだと考えられます。国際通貨基金（IMF）の2017年の人口調査では、1位がインドネシアの約2.65億人、2位がフィリピンの約1.08億人、3位がベトナムの約9,400万人です。

そのようなベトナムの消費市場で、現在成長が期待されている分野の1つは「医薬品市場」だと言われています。2009年時点で17億USドル（約1,819億円）であった市場規模が、2017年時点では約52億USドル（約5,564億円）と、わずか8年で3倍以上の成長を遂げています。もちろん人口が増えた影響も考えられますが、市場規模が拡大しているのは顕著です。

しかし、市場の急成長とは裏腹に、得てして何かしらの問題が隠れていることがあります。ベトナムの医薬品業界も例外ではありません。 ※1USドル=107円(2018年4月10日)

〈国内の製薬業界の現状〉

在ベトナムヨーロッパ商工会議所（Euro Cham）により開催されたセミナー「患者の健康状態の改善—医薬品業界における品質と発明の役割」において、2016年にベトナム国内で流通する医薬品の内、国産の市場シェアが僅か48%しかない事が発表されました。

つまり、ベトナムの医薬品市場の過半数を外国産（主にフランス、インド、韓国、ドイツ、スイスなど）が占めており、完全に外資製薬会社に依存している状況であると言っても過言ではありません。

〈理由と原因〉

ベトナムの医薬品業界が外国産の医薬品に依存する要因として、「圧倒的な技術力不足」が挙げられます。当然ですが、発展途上国で

あるベトナムが経済的にも、技術的にも先を行く先進国にこの点で追いつくことは現状では非常に難しいと言えます。そのため、国内で製造できる医薬品の種類にも限界があります。実際、現在ベトナム国内で製造されている医薬品の大半が簡易的なジェネリック薬（特に風邪薬や抗生物質など）であり、高度な技術を要する「特効薬」に値する医薬品の製造には手が回っていないのが現状です。

(市販薬)



〈総括〉

外国産の医薬品に依存する状況で最も危惧されることは、価格と供給のバランスの脆さです。外国の医薬品は輸入コストが多く掛かり、仲介業者の手数料等も上乗せされ、その分、本当に医薬品を必要とする患者にとって金銭的な負担になります。また、医薬品を製造する国で何かしらの緊急事態が発生した場合、医薬品の安定供給ができなくなる可能性もあります。そのため、国内で製造し消費すると言った国内完結型の循環を形成する事が重要になります。

現在、ベトナム政府は国民が安価な薬を安定的に購入できるよう、予算の多くをこの補助金に充てているようですが、上記のような循環を築き上げられなければ問題の解決には繋がりません。そのような意味でも、政府が医薬品業界を抜本的に見直す必要に迫られるのも、もはや時間の問題かもしれません。

一方で、上述したように、まだベトナム産の医薬品だけで国内市場を賄うことはできないため、ベトナムでは外国産の医薬品を必要としています。確かに、外国産の医薬品をベトナムで販売するには非常にハードルが高いですが、逆に一旦販売できた場合、ベトナム国内では競争が激しくないという利点もあります。これをどうとらえるかによりますが、ご興味があれば視察にお越しください。